

第1回

ハーベスト再臨待望聖会

日本のリバイバル ユダヤ人の救い メシアの再臨

イスラエル、教会、そして、神の世界救済計画



ノアム・ヘンドレン

中川健一

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

「向きを変えて出発せよ」

申命記 1 : 6 ~ 8

中川健一

イントロ：

1. ハーベスト・タイムは 24 年間続いたテレビ伝道を終えて、新しく出発した。
2. その最初の試みが、「第 1 回ハーベスト再臨待望聖会」である。
3. 申命記は、歴史的回顧と未来展望の書である。
4. アウトライン
 - (1) 向きを変えて出発する (1 : 6 ~ 8)。
 - (2) 指導者を任命する (1 : 9 ~ 18)。
 - (3) 信仰に立ち続ける (1 : 19 ~ 33)。
5. ゴール
 - (1) 歴史的回顧
 - (2) 将来の展望
 - (3) 自らの旅立ち

このメッセージは、約束の地への行進を促すものである。

1. 向きを変えて出発する (1 : 6 ~ 8)

1. 「あなたがたはこの山に長くとどまっていた」
2. 1 年間でイスラエルの民が経験したこと
3. 「向きを変えて、出発せよ」
4. 目的地

II. 指導者を任命する (1 : 9 ~ 18)

1. 「私だけではあなたがたの重荷を負うことはできない」
2. 指導者の任命
3. ハーベスト聖書塾の役割

III. 信仰に立ち続ける (1 : 19 ~ 33)

1. カデシュ・バルネア事件
2. 10人のスパイの否定的な報告

結論

1. 歴史的回顧

- (1) 出エジプトを体験していない新しい世代のイスラエル人
- (2) この聖会では、神の人類救済計画がどのように発展してきたかを学ぶ。

2. 将来の展望

- (1) 約束の地を前にして、歴史の流れと自らの使命を確認している。
- (2) この聖会では、メシアの再臨に向けた歴史の流れと自らの使命を確認する。

3. 自らの旅立ち

- (1) 人間は現状維持を求めるが、そこには停滞という危険がある。
- (2) 方向を変えると、混沌に入るが、やがて高嶺に到達する。
- (3) 新しい選びとともに、新しい活力が与えられる。
- (4) 神の約束は、すでに与えられている。
- (5) 自らへの問いかけ

「イスラエル、教会、そして、神の世界救済計画」

セッション1 「神の世界救済計画と神の器としてのイスラエル」

ノアム・ヘンドレン師

I. 人類救済の必要性 (神の完璧な計画が崩壊した)

A. 神の完璧な計画 (創1：26～28、31)

1. 祝福に満ちた神の計画 地上に現れた神の国
31節 「見よ。それは非常に良かった」
2. エデンの園の描写
創2章

B. 墮落 (創3：7～24)

1. 「無害に見える」神への反逆が重大な結果をもたらした (創2：16～17 参照)。
 - 自分からの疎外 (3：7)
 - 神からの疎外 (3：8～10)
 - 隣人からの疎外 (3：11～13)
 - 自然界からの疎外 (3：14～19)
 - 神の臨在と命からの分離 (3：22～24)
2. 罪の結果
創4～11章参照

C. 約束

1. ただちに与えられた衣服 (3：21)
2. 救い主の約束 (3：15)

II. 神の世界救済計画：神の祝福を届ける器としてのイスラエル

A. アブラハムとその子孫の選び（創 12：1～3）

1. 神はアブラハムとその子孫に**対して**祝福を約束された（1～3 a）。
2. 神はアブラハムとその子孫を**通して**、全世界に**対して**祝福を約束された（3 b）。
 - 祝福＝エデンの園の状態の回復
 - 祝福＝人類と世界の、霊的、物理的回復
3. 神は**アブラハムと無条件契約**を結ばれた（創 15：17～18）。
 - 神だけが切り裂かれた動物の間を通過している。
 - エジプトからの解放は、契約成就の第一段階である（出 6：2～8 参照）。

B. アブラハムとその子孫は、「全き歩みをする」ように召された。

創 17：1～2

出 19：5～6

1. 無条件契約でも、祝福を受けるためには【主】に従う必要がある。

創 17：1～2
創 18：17～19
2. アブラハムの従順
イサク奉獻
契約の更新
創 22：16～18
ヤコブの場合（創 32：24～29）
3. **シナイ契約（モーセ契約）**で、神はイスラエルへの約束を再確認された。

出 19：5～6
24：7～8 参照

(1) 契約に従順であれば、契約の祝福を受ける。
「わたしの宝」 出 19：5（創 17：8 参照）

- イスラエルは、靈的に神との特別な関係に置かれた。
- イスラエルは新しいエデンの園となる。
レビ 26：3、11~12

(2) 神に従うなら、イスラエルは「**祭司の王国**」となる。
出 19：6

(3) モーセの律法は、神とは誰か、いかに歩むべきかを教えた。
申 31：11~13
レビ 11：45
「あなたがたは聖なる者となりなさい。わたしが聖であるから」

まとめ

- 神は最初の計画をあきらめておられない。
- 神はアブラハムとその子孫を選ばれた。エデンの園の状態を回復するため。
- 神は、ご自身が結ばれた無条件契約の制約を受けておられる。

「イスラエル、教会、そして、神の世界救済計画」

セッション2 「イスラエルの墮落と回復」

ノアム・ヘンドレン師

I. イスラエルの墮落と、捕囚

A. シナイ契約の中に見られる神の警告：矯正のための裁き（レビ 26：14～39）

1. 漸進的裁きは、民を悔い改めへと導くために与えられた。
レビ 26：14～18、21、23、27、40～42
2. 最悪の裁きを与えられても、イスラエルに対する神の約束は存続する。
レビ 26：44～45

B. イスラエルは常に【主】に逆らい、【主】からの裁きを身に受けた。

1. カナン征服前から、【主】はイスラエルの偶像礼拝と捕囚とを預言された。
申 31：16～18、21b
申 4：25～28 参照
2. 「祭司の国」であるイスラエルは、捕囚の地にあっても神の御名を汚した。
エゼ 36：17～21

C. どの時代にも、イスラエルの残れる者の存在があった。

- Ⅰ 列 19：14、18
イザ 6：13

II. 神は、ご自身の民イスラエルを贖い、回復すると約束された。

A. **ダビデ契約**：ダビデの子、メシアを起こすとの約束

- Ⅰ 歴 17：16
詩 110 篇参照

1. メシアは自らの命を捧げ、イスラエルの祭司としての使命を果たす。

イザ 49：3、5～6

イザ 53：5～6、8b

2. メシアは王として民を贖い、敵を滅ぼし、地上に神の国を建てる。

イザ 9：6～7

イザ 11：1～10

B. 神はイスラエルと新しい契約を結ぶことを約束された。

エレ 31 章

エゼ 36 章

1. 民はシナイ契約を守ることができなかったので、神の介入が必要となる。

エレ 31：31～34

2. 聖霊の内住。その聖霊が、神の御心を行えるように民を清め、作り変える。

エゼ 36：25～28

III. 終末時代、最後の裁きを下る時、生き残っているイスラエルの民に聖霊が注がれる。

ゼカ 12～13 章

イザ 59～60 章

A. イスラエルに下る最後の裁きには、同国に対する世界的規模の侵攻が含まれる。

ゼカ 12：1～3、9

エゼ 38～39 章参照

1. 旧約聖書では、「終わりの日」に起こる究極的な「患難」が預言されている。

申 4：30

エレ 30：4～7、ダニ 12：1 参照

2. 患難の目的は、イスラエルを神に立ち返らせること。**B. 滅びが迫った時、神は民の上に聖霊を注ぎ、唯一のメシアを示される。**

ゼカ 12：9～14

1. 民が信仰と悔い改めをもって神に立ち返るまでは、神は介入されない。
ゼカ 12：9
2. 聖霊によって、イエシュアだけがイスラエルの希望であることが啓示される。
ゼカ 12：10a
イザ 10：20～21 参照
3. イスラエルに真の悔い改めと信仰が与えられ、神の祝福を受ける条件が整う。
ゼカ 12：10b～14
レビ 26：40～41、申 30：1～3 参照

C. 民族的悔い改めは罪からの救いをもたらし、神から与えられた召命が成就する。

1. 民族的悔い改めは、民族的清めと神への献身をもたらす。
ゼカ 13：1、13：2～3、8～9
2. メシアにより、敵から救い出される。
ゼカ 14：2～4
3. 贖われた民は、【主】からの祝福を全世界にもたらず器となる。
イザ 59：20～60：3、21、61：6a
ゼカ 8：13、22～23 参照

まとめ

- イスラエルは最初から、神への反抗を繰り返してきた。
今日に至るまで、罪と裁きのサイクルが続いている。
- しかし、神はイスラエルを見捨ててはおられない。
メシアによる贖いと将来の聖霊の注ぎの約束
- 終わりの時代に、「ヤコブの苦しみの時」(エレ 30：7) に、聖霊が注がれる。
- 贖われたイスラエルは、本来の使命を実行する。

「イスラエル、教会、そして、神の世界救済計画」

セッション3 「メシアのからだ — イスラエルと諸国に恵みを伝える現在の器」

ノアム・ヘンドレン師

I. イスラエルがメシアを拒否したので、神の祝福を届ける器がなくなる危険性が生じた。

A. イエシュアは、悔い改めて神からの使命を果たすようにイスラエルに語りかけた。

1. バプテスマのヨハネの奉仕
マタ 3 : 1~2、7~11
2. イエシュアは、ヨハネのメッセージを引き継いで民に語った。
マタ 4 : 17、5 : 11~16

B. イスラエルの民は、宗教的指導者たちの意見に従った。

1. 宗教的指導者たちは、イエシュアの働きをサタンの力に帰した。
マタ 12 : 24
2. 民衆は、指導者の意見に従った。
マタ 12 : 38~41
マタ 27 : 20 参照
3. *信じたのは少数のレムナント (残れる者) であった。弟子たちのこと。*

C. 民は裁きの対象となり、メシア的王国は「その世代」には成就しなくなった。

- マタ 12 : 43~45
ルカ 19 : 41~44
ルカ 21 : 20~24
マタ 21 : 43

問題：イスラエルがイエシュアのメシア性を拒否した結果、神の救いのメッセージを伝える器が地上にいなくなった。

II. 現時点では、メシアのからだ（エクレシア/ケヒラ）が代理的器となっている。**A. メシアのからだの性質****1. 奥義（ミステリー）**

旧約聖書にはなく、イスラエルがメシアを拒否して以降に啓示された概念

エペ3：4～6

コロ1：26 参照

2. メシアにあって

御霊によってバプテスマを受け、**メシアのからだの一部**とされた。

1 コリ 12：13

ロマ8：9～11

エペ1：13、22～23

1 コリ6：15a 参照

3. 普遍的

ユダヤ人も異邦人も同じ特権に与っている。

ガラ3：27～28

コロ1：27 参照

- 異邦人は、「**接ぎ木され**」、イスラエルの残れる者と「**同じ国民とされ**」た。

「**聖徒**」

エペ2：11～13、18～19

ロマ11：17～18

4. 一時的

救われる異邦人の数が満ちるまで

その時、イスラエルは救われ、自分の使命を果たすようになる。

ロマ11：25～27

ロマ11：12、15 参照

B. メシアのからだの目的

メシア（完璧なイスラエル）の働きを継続する。

使1：1 「イエスが行い始め、教え始められたすべてのことについて書き」

マタ28：18～20

コロ1：24 参照 「キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです」

1. **すべての**信者は、祭司としての使命を果たすように期待されている。
 - イエスの救いの伝達
1ペテ2：9
マタ28：18～20
マタ5：11～16 参照
 - 異邦人の間から神の民を救う。
使15：14

2. ケヒラは、神の知恵（イエシュアの犠牲的死）を伝え、神に栄光を帰す。
エペ3：8～11、1：11～12
ロマ11：32～36

Ⅲ. メシアのからだに属するユダヤ人と異邦人は、神の祝福の器として召されている。

A. メシアニック・ジューは、今日のイスラエルの残れる者である。

ロマ11：1～9

1. その存在は、イスラエルに**対する**神の契約が有効であることを示している。
ロマ11：1～5
イザ10：20～23、6：13、エレ30：11 参照

2. メシアニック・ジューは、イスラエルへの預言的奉仕を継続している。
マタ10：5～7
使2～3章、13章
ロマ1：16、10：1～3、11：13～14 参照

3. メシアニック・ジューは、諸国民に対する使命も与えられている。

B. 異邦人信者は、「メシアにあって」、忠実なイスラエルに「接ぎ木」された。

ロマ11：11～15

エペ2：11～13

1. 異邦人信者は、イスラエルを**通して**異邦人に与えられた約束の証人である。
使15：14
ロマ11：13

ルカ 2 : 30~32 参照

2. 異邦人信者は、イスラエルに約束された靈的祝福に与るようになった。

ロマ 9 : 1~5、8 : 28~31 参照

異邦人信者はイスラエルにねたみを起こさせるように召されている。

ロマ 10 : 19、11 : 11、14 参照

- 傲慢、反ユダヤ的姿勢と行為を拒否する。
ロマ 11 : 18a、19
- 謙遜になり、イスラエルに属する特権に与っていることに感謝する。
ロマ 11 : 18b、28~29、15 : 27
- 犠牲的愛をもってイスラエルを愛し、祈る。
ロマ 9 : 1~5
ロマ 10 : 1、詩 122 : 6~9

3. イスラエルの救いは異邦人の時が満ちてから起こるので、異邦人伝道に励む。

ロマ 11 : 25b

まとめ

イスラエルは今も、その一部がかたくなになっただまである (ロマ 11 : 25)。

私たち異邦人信者は、イスラエルに負債を負っている。

イスラエルの民族的救いのために、できることをすべて為すべきである。



無断複製・転載を禁じます